



# AGF 「ブレンディ クリーミーアイスオレ」

## 発売4年目で名称変更、アイス訴求を加速

「冷たい牛乳で飲む」  
「アイスキャラメルオレ」  
「アイスキャラメルオレ」

「アイスキャラメルオレ」ではなく、「スイーツ感覚」であることが分かり、それが「クリーミー」

性  
様々なリニューアルを検討するなか、「何が消費者の支持を得ているのか」を確かめた。その結果、夏にありがちな「冷たくてゴクゴク飲める」

「製品名を変える必要」  
「クリーミーアイスオレ」シリーズが誕生した。

「リニューアルのきっかけ」  
スティックの夏における飲用シーンの拡大、アイス飲用を訴求するため、20年に「冷たい牛乳で飲む」シリーズを投入。製品名でアイス飲用を分かりやすく訴求したことが奏功し、好調に推移してきた。4年目を迎える今年、冷たい牛乳を加えて作るスティックの認知がある程度進み、次のステップに、移行する時が来た」と判断した。



聞き手 石母田景

「クリーミーアイスオレ」シリーズは、牛乳のクリーミーさが潜在的なスイーツ需要を強く刺激しているようだ。

「スティックのスイーツ需要は以前から開拓しているが」  
ホットでもカフェメニュー(抹茶、キャラメルのラテなど)を提案しているが、お湯を注ぐだけのもの。これらも順調だが、

「クリーミーアイスオレ」シリーズが誕生した。

「クリーミーアイスオレ」シリーズの独自価値と言えるだろう。

「クリーミーアイスオレ」シリーズは、牛乳に混ぜるとココが



30代女性になる。分析し切れていないが、自分の子どもと共有しているのではなか。自分のためでも子どものためでもなく、自分も含めた家族のため購入している。嗜好が多様化する現代だが、ひとつの製品で複数人のニーズを満たせる魅力は大きい。  
また、ホットとの併飲がある一方、新規のスティックユーザーも確認できており、当社のスティック事業および市場の将来性にとって非常に意味があると考えている。  
——スティックの将来性とは  
様々にあるが、先にも述べた通り、アイス飲用の認知拡大は欠かせない。感覚

4月開始のキャンペーン  
「クリーミーアイスオレ」シリーズは、牛乳のクリーミーさが潜在的なスイーツ需要を強く刺激しているようだ。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

「アイス飲用のポテンシャルを引き出す役目も？」  
その想いはかなり強いが、課題はある。リピート率が高い一方で、トライアル率には全く満足していない。

やはり、スティック市場はホットのイメージが強すぎるのは大きな壁だ。これを打破していく必要がある、人の動きがさらに戻るだろう今年、店頭コミュニケーション、サンプリングなど体験の場を多く提供していくつもりだ。  
——アイス飲用、クリーミー以外に独自価値はあるか  
他業種とのクロスMDには可能性を感じている。嗜好が多様化し、多くの選択肢がある現代では、ひとつの製品だけで戦うのが難しい背景もある。  
具体的には、牛乳売場とのコラボは良い反応だ。昨今社会課題化している牛乳の消費量減少、それに伴うフードロス懸念している流通からも評価は高い。ほかにも、豆乳やアーモンド飲料などプラントベース飲料とのコラボも検討している。これらで溶かした「クリーミーアイスオレ」シリーズの味わいにも自信がある。スティックと同じく常温販売のプラントベース飲料(牛乳はチルド販売)とのコラボは、スムーズに実現できるかもしれない。